

求買録・土蔵新築費用記録（掛札一覧表②）

明治 14 年 12 月



289

1854

金三拾三圓	太鼓并蒲團
全五拾壹圓	太鼓臺
全九拾五錢	鐘、鈴、摺鐘
全五圓三拾錢	獅子着物、晒黃木綿
全六拾一錢	獅子前齒修繕
全六拾九錢	房四組
全五圓九拾八錢	獅子塗
全七拾錢	獅子張紙頭毛
全一圓三拾八錢	紅提燈
全七圓拾六錢	獅子着物染替仕
全四拾錢	木綿
全二圓九拾三錢	諸道具
全九圓七拾八錢	獅子鼻高面塗
全七圓五拾錢	古太鼓臺
全八拾六錢	諸費用
全拾五圓七拾七錢	竹一切
全七八圓九拾五錢	瓦一切
全三拾圓六拾錢	繩代
全五圓四拾七錢	鐵物一切
全四圓八拾九錢	大工左官共作料
全壹圓六錢	壁石灰フノリスサ
全貳圓貳拾七錢	石代
全貳拾圓三拾四錢	藁代
全貳拾圓三拾四錢	諸費用一切
上棟式諸費用	

現在の丸端の大師堂の付近に、昭和30年代当初ごろまでたしかに白壁の十蔵（倉庫）があり、村内に建てる額の部材などが収納してあった。

その土蔵の新築費用の記録であり、「款待社が世話役として頑張りましたよ」との告知でもある。

秋祭り関連用具（太鼓、獅子頭、鐘等）を新調、又は修繕した際の所要経費の記録である。太鼓臺（台）の金額からして、これが今に伝わる総欅造りのだんじりか。

先人たちの祭礼に対する畏敬の息吹が伝わってくるようだ。